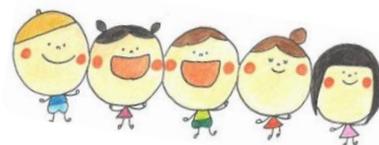




むぎのほ かいかんだより



2021年9月
第258号

子ども家庭支援センター麦の穂
中津川市千旦林1468-7 地域交流ホーム 麦の穂会館
TEL 0573 (68) 6858 FAX 0573 (64) 8139

子ども家庭支援センター麦の穂は、県からの委託を受け、里親包括支援事業（フォスターリング事業）を行なっています。今月号では、“里親”に関する情報を一部分ですがご紹介します。

里親制度は、様々な事情で家族と暮らせない子どもたちを一般の家庭で預かり、社会のみんなで育てていく“子どものため”の制度です。子どもたちのために、私たちができること、少しずつ考えてみませんか？



家族と離れて生活している子どもが、東濃地域には約80人います。
(R3.4現在)

こうした子どもたちの生活の場は、里親家庭や施設です。



里親にはいろいろな“かたち”があります

子ども期は、成長、発達にとって大切な時期です。温かい愛情と、里親制度について正しい理解を持った里親家庭で生活することは、子どもたちが健やかに成長していく大きな助けとなります。

岐阜県では、里親家庭が不足しています。要因のひとつに“里親制度”を知らない方が多いことがあげられます。



ショート里親事業
施設に入所している子どもを、週末や夏休みなどにおうちに迎える里親です。

養子縁組里親

養子縁組を結ぶことが前提です。養子縁組が成立するまでの間、里親として一緒に生活します。

養育里親

18歳未満の子どもを、自分の家庭に受け入れる里親であり、養子縁組を目的としない里親です。期間や子どもの年齢などについては、里親家庭の意向もお聞きします。

子どもを初めて家以外で泊まらせる体験で教えられる事

親は子どもが初めての外泊に大変心配と不安を覚えることがあります。いつも甘えて自由気ままに生活している家から外で泊まることになると、一人で本当に泊まれるか心配になる親が多くみられます。初めての場合、親は眠れないほど心配しすぎたり、わが子は何でも自分でできるから信じているので安心して泊まらせるなど様々です。心配しすぎる親は、送り出す時に「泣かないでね、大丈夫だからね」と親が涙顔になって送り出す場合、そして「下着はここに入れるね、替えはこの袋、歯ブラシはここ、傘はここよ」とすべて親が子どもの手を使わせないで自分でカバンに入れてしまう場合が見られます。子どもは自分で下着を袋に入れたり、歯ブラシを自分でしまわなく親任せのために自分が下着を出そうとしてもどれか解らない、歯ブラシをどこに入れたか知らないで●●どこと自分で行動ができない場合になります。幼稚園・保育園・こども園でお泊り保育・合宿といって自分の園や施設で泊まる体験をしていることがあります。初めての体験をする場合に先生は、優しく・丁寧に持ち物のこと、薬の与え方、夜のトイレをいつも何時に起こしているか、アレルギーの事など細かく連携をして安全・安心できるような配慮をして実施している園が多くあります。

子どもには自分で●●する体験をさせることで将来、困難に出会ったときに自分で乗り切る力をつけようと全国の園は頑張っている実情があります。

しかし、母親は子どもが泊まる能力が育っていることが信じられなくて、心配のあまり、すべてに手をかけて子どもに触らせない・忘れ物がないか心配で子どもに自分でしまうことをさせなかったり、持ち物に自分で名前を書かせないで母親が書いて子どもは自分で名前を書かない、パジャマも自分でたたむことが丁寧にできない、カバンに畳んで入れる体験がないために詰め込んでカバンにはいらなくて「先生パジャマはいらない」「歯ブラシはどこかに行ってしまった」「帽子が見つからない」と先生に訴える子どももいます。初めて外泊する時、

母親は送り出す時に、涙顔・心配・不安な雰囲気を絶対に作らない。

母親は、子どもが自分で●●する力をつけるために家から離れる体験を援助する子どもが本当の親離れのチャンスとして手を出しすぎないで準備させる

夜のトイレ心配や自分で着替え・食べたり・友達とかかわる力を信じて前日はしつこく・何度も言わないで楽しいことを浮かぶ話題にして温かい雰囲気で寝かせる。

当日の夜は、母親は泣かないで安心してゆったりと過ごし、笑顔で帰った時迎える。親別れ・子別れの大事なチャンスです。今までの子どもの自立している姿を一つでいいから見つけて、信じることで将来の自分で生き抜く資質と能力を育てる体験にしたいです。